

平成8年(1996年)3月15日発行

贈る言葉

さあ、
物作りを得意とする
諸君の出番!!

日本工業大学学長——神馬 敬

皆さんの卒業する平成七年度は戦後から数えて五十周年の節目にあたります。終戦時、私は中学一年生でしたが、食料不足で一日中腹を空かせていました。それから五十年間、日本の復興は目覚ましく、焦土と化した敗戦国から世界の経済大国へと生まれ変わりました。

これは日本国民の努力の賜物ですが、「傾斜生産」という石炭と鉄に重点を置いた大胆な施策がとられたことも重要でした。戦災による廃墟の復興のためには鉄と石炭の生産が必須であると大目標を設定し、国民の大部分が米に野菜等を混ぜて量を増やして飢えをしめていた中で、炭坑労働者は銀飯(白米のご飯)を食べられるようにしたといったことを覚えておいてください。かつての日本は政治家も官僚も偉かったとつくづく思います。

最近では経済発展を至上とした風潮が行き過ぎた結果、高い車ほどよく売れるといった考えがまかり通り、住宅金融専門会社等の問題に見られるように、価値判断の感覚が狂って、モラルの低下がおきました。日本人はもう一度五十年前の初心に帰って努力し直すことが必要でしょう。

自分のことをいうのは気が引けますが、二十代から四十代までは毎日大学に行っていました。もちろん休日にも大学に行っていました。研究ばかりしていたのでは学生が付いてこないし、家人も面白くない。そこで家族ぐるみの付き合いもやって、テニスもしたり、ビールも飲んだり、当時の学生や職員は本当に懐かし、今でも年に二回、友達つき合いの集まりが続いて下さい。



諸君も在学中に先生方とおつき合いが深まったことでしょうか。友人もたくさんできたと思います。この人脈を大切にしてください。学内に生涯学習センターが設けられ、技術者の再教育プランも練られています。卒業後も日工大を積極的に利用して下さい。

諸君がこれから背負って立つ日本は容易な状況ではありません。戦後、日本人がまじめにこつこつ働いてきたお陰で巨額の貿易黒字ができましたが、思いがけないことに貿易摩擦となつては返って日本人は働き過ぎといわれ、ジャパン・バッシングをよみました。

これは他人への思いやり、国際協調の視点が欠けていたからです。資源・エネルギーは全部、食料も相当部分を輸入しなければならぬ日本は、物を生産し輸出して外貨を稼がねば生きていけません。近隣諸国の急成長に付加価値の低い生産工場は海外に移転する空洞化現象が起きている。日本が今後生きていくためには諸外国に真似できない新技術・新製品を開発していかねばなりません。物作りを特技とする教育を受けた諸君の出番です。奮闘を期待します。

平成七年度は阪神大震災、超円高不況、サリン事件と多事多難の年で、就職にも大変な苦労があったと思います。しかし、不況の年に就職した学生からは企業を背負って立つ人材が生まれると聞いています。会社の諸君にかけられる期待は大きいのです。大学院に進学される諸君も頑張ってください。

機械工学科及び全学の卒業を迎えられる諸君、今の心境はいかがですか。何はともあれ、人生の大きな節目ですから、この時に、これまでの君の人生、これからの生き方について大いに省察を巡らせて下さい。



機械工学科主任

柳沢 章教授

人間として誠実に生きよ



も知れませんが、そんな君達に、今日は一つだけ注文しましょう。それは人間として誠実に生きて欲しいということです。技術者として誠実に生きて欲しいということです。省察を巡らせて下さい。

君の学生生活は如何でしたか。勉学に大いに打ち込んだ諸君も、クラブ活動に完全燃焼した諸君も、卒業研究に没頭した諸君も、そして学生生活が反省する事ばかりだった諸君もいるか

電気電子工学科主任

大久保勝弘教授

世界人としての自覚を



卒業おめでとうございます。諸君が新入生として日本工業大学の門をくぐってから早くも四年の歳月が過ぎてゆきました。

大学で過ごした四年間の勉学やクラブ活動、親しい友達との出会い、そして卒業研究を完成させるための頑張りは、貴重な体験として今後の諸君の発展をささえる基礎となるはずです。

卒業後は、あるいは社会へ巣立ち、あるいは大学院へ進学するなど、それぞれの

建築学科主任

桑原 文夫教授

習った事をすぐに仕事に



大学を卒業して一年ほど経ったOBから次のようなことを聞いた。

はい。最初のうちは「学校ではそのように習いました」と言っていて通すくらいはいいがよい。

専門家としての仕事を二年以上経験した、しかも第一級の技術者は決してはじめのOBのようなことは言わない。物事を決めるに

システム工学科主任

三宅正二郎教授

人生に長期的展望を



ご卒業おめでとうございます。皆さんは日本工業大学を卒業してこれから実社会に

自信を持って、失敗を恐れずに積極的にチャレンジしてください。この時、大学で得た人のネットワークを生かして下さい。もし、新しい技術が必要になれば、是非、大学を訪ねて下さい。

四年間の大学生活、小学校から数えれば十六年、あるいはそれ以上の学生生活を経てたくましく成長して、社会に出ていく皆さんに、ぜひとも耐えるしかないの、あえてきついなをしたいと思います。

共通系学科主任

高本 研一教授

ノブレス・オブリジュー



あります。失意泰然と悟ることは仲々難しいし、その時に良い助言に恵まれることも稀でしょうから、じっくりと耐えるしかないの、あえてきついなをしたいと思います。

それよりも、私が声を大にしたいのは、得意の時のことです。ノブレス・オブリジュー(貴族にはそれなりの義務が伴う)という諺があります。民主主義の今どき貴族など関係ないと思われ、後援に足を運んで時、この言葉を思い出して下さい。

学位記授与式 三月二十日

機械工学科

平成
七年度
卒業生一覽
三月二十日付
確定者

電気電子工学科

昨年の卒業式より

建築学科

諸君、卒業おめでとうございませう。私は、まず諸君の多くが「超氷河期」と言われる厳しい就職戦線を突破し、社会に旅立たれることに、深く敬意を表します。かえりみるに、諸君が本学に入学した際、私は学長として「手を動かして考えること」……つまり、わが日本工業大学の「実践的な工業教育」という伝統を自覚してほしい、と訓示致しました。

従って、諸君はこの四年間、その伝統と諸先生方の指導のよろしきを得て、立派に社会に役立つエンジニアリングを修得したものと確信している次第です。さて昨今は、かつてダニエル・ペル（現アメリカ芸術・科学アカデミー会長）が指摘した「ポスト・インダストリアル・ソサエティ」という言葉が「脱工業化社会」と訳された事もある。つまり、世界に衆目が離れがちな傾向が見られます。しかしペル氏の言う「ポスト」の真意は、より高度な、あるいは成熟段階に入

生涯学習を視野に



日本工業大学理事長
大川 陽康

しかしながら問題点は、資源や環境問題に象徴されるように、技術の果たすべき役割が従前のそれと比べて「大きく性格を変化」してきているところにあります。従って、諸君が技術社会の第一線で、それらの変化に対応して行くためには、好むと好まざるとにかかわらず、つねに勉学にいそむ姿勢を堅持しなくてはならないのは、当然の成り行きです。でも心配することはありません。諸君の「手技のふるさと」である日本工業大学には、いつでも相談のこ

昨年の卒業式より

大学院工学研究科修了生

●博士後期課程

【機械工学専攻】

【機械工学専攻】

【電気工学専攻】

●博士前期課程

（平成8年3月20日付修了）

【機械工学専攻】

【建築学専攻】

【システム工学専攻】

【電気工学専攻】

博士号取得者

●卒業生一同のご健闘を!!



重要な自分研究・自己分析

満足度が高かった就職活動の結果

就職課長 野村 隆

平成七年は、阪神大震災に始まって、オウム事件、超円高、株価低迷、景気後退など暗いニュースばかりが続く、このことが就職戦線にも少なからず影響を与えた。

政府は昨年六月に公共事業の前倒しなどを柱とした緊急経済対策を決めたが、景気は足踏みを続けた。雇用状況も悪化し、女子大生は「超氷河期」と言われる就職難に泣き、八月末になっても三人に一人が就職活動が続けたという。

幸いに本学にお寄せいただいた求人票の数は、三、二〇〇件のほり、この数は就職希望者の十倍に達した。文系大学や女子大学からみれば羨ましい数字である。だからと言って、本学が就職戦線において勝てたわけではない。

また就職試験は入学試験や期末試験とは全く異なる試験で、単なるペーパー試験ではない。企業は学生の学業成績や筆記試験を参考にしているが、人物を重視することである。今年度、学業成績の優秀な学生が大手設備工事の企業を受験したが不合格になってしまった。その企業の人事課長が曰く、「うちは、学業成績が優秀でも性格のおとなしい学生は採用しません。うちの仕事柄、学業成績が多少悪くても元気で明るい学生がいいのです」と。しかし、不合格になったその学生は別の大手設計の企業とは性格がよく内定をもらっている。前述の逆もあった。某企業が現行の入試制度に移行してから二回目の入試になる。受験者数の昨年度比較

平成七年は、阪神大震災に始まって、オウム事件、超円高、株価低迷、景気後退など暗いニュースばかりが続く、このことが就職戦線にも少なからず影響を与えた。政府は昨年六月に公共事業の前倒しなどを柱とした緊急経済対策を決めたが、景気は足踏みを続けた。雇用状況も悪化し、女子大生は「超氷河期」と言われる就職難に泣き、八月末になっても三人に一人が就職活動が続けたという。幸いに本学にお寄せいただいた求人票の数は、三、二〇〇件のほり、この数は就職希望者の十倍に達した。文系大学や女子大学からみれば羨ましい数字である。だからと言って、本学が就職戦線において勝てたわけではない。また就職試験は入学試験や期末試験とは全く異なる試験で、単なるペーパー試験ではない。企業は学生の学業成績や筆記試験を参考にしているが、人物を重視することである。今年度、学業成績の優秀な学生が大手設備工事の企業を受験したが不合格になってしまった。その企業の人事課長が曰く、「うちは、学業成績が優秀でも性格のおとなしい学生は採用しません。うちの仕事柄、学業成績が多少悪くても元気で明るい学生がいいのです」と。しかし、不合格になったその学生は別の大手設計の企業とは性格がよく内定をもらっている。前述の逆もあった。某企業が現行の入試制度に移行してから二回目の入試になる。受験者数の昨年度比較

では是非採用したい。何とかならんせんか」ということと、当の学生を呼び出し、関係のないことまで話して聞いてみると、その学生は「好意はありがたいのですが、自分の目指す業種と、飾らないこと、偽らないこと、飾つたり、偽つても、ばれてしまう。自然体で臨もう。ただかしこまっ自分の意見も言わないで」という。このように相手性というものはなかなか難しい。

ある学生が私のところに相談に来た。三社受験したの意見も言いつて落とされ、どうもうまくいかない。で今後どのように受験したらいいのかわからない。その学生は元気がなく、声も小さい。私は、先ず彼の傷心を癒すため、今まで受験し落とされた企業はまた入社に内定したK君。住宅産業に内定した女子学生のHさん、苦労した分、内定をいただいた喜びも大きかった。二つの企業から内定をもらってどっちにしようか大いに迷っていたT君。人事課長が同郷だったK君等、校挙に暇がないけれど、就職試験の内定は、仮の試験の合格であつた。真の試験は入社してからだ。健闘を祈る。

平成八年度入試状況

平成八年度一般入学試験は二月十二日から十四日まで、本学を会場にして実施された。これで昨年九月十日の推薦B方式の面接を皮切りに続けられてきた平成八年度入試日程のすべてを終了した。

厳しい合格状況が受験回避を招いたことや、出願した工業高校が出願者数を絞る少数精鋭の戦略にでたことなどをうかがわせる。

一般入試は総数で二八五名増。内訳はA方式が二七二名、B方式が一名。増加率は二六パーセントとなり、昨年度の減少分を回復したことになる。受験者数増加の要因は幾つか考えられるが、いずれも推測の域をでない。詳細な分析は後報としたい。

受験者数比較			
	平成7年	平成8年	増減
推薦A方式	548	558	10
推薦B方式	1,279	986	△293
一般入試	1,079	1,364	285
計	2,906	2,908	2

台湾学術協定校より来訪

学術交流の一層の進展を図る

さる二月六日、本学の学術交流協定締結校である台湾の高苑工商専科学校（一九九〇年締結）および本学付属の姉妹校である高英高級工商職業学校（一九六九年締結）より余重事長他四名が来学された。



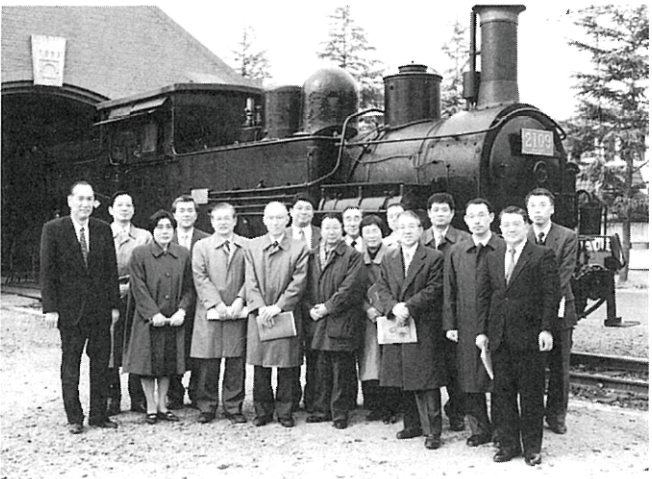
考察団メンバーと本学関係者

同日、夕刻に来学された学長、教務部長の列席のもとに歓迎レセプションが行われ、友好を深められた。また、席上、今後の学術交流について、両校の協力を誓いあった。

翌七日は、早朝より建築学科実験研究棟、情報工学科実験研究棟及びCAD/CAM/CAD/AE演習棟を見学、他大視察のため、本学を後にされた。

文部省初等中等局より来学

充実した諸施設に高い評価を頂く



工業技術博物館に永久動態保存のSL機関車

さる二月九日、文部省初等中等局教科書科より左記九名の調査官の方々が来学された。

当日は、学長、各部長、図書館長、博物館長と懇談後、左記の施設を視察された。

工業技術博物館、建築学科実験研究棟、材料試験研究センター、超高压放電研究センター、CAD/CAM/CAD/AE演習棟、機械工作センター、情報工学科実験研究棟

なお、工業技術博物館見学の際には、動態保存SL2109号の走行を観覧された。

視察後の感想として、工業高校出身者が入学生の大部分を占めている本学独自の教育理念・姿勢、そしてその教育課程について、理系教育の一つの方向を示すものであると、各調査官から高い評価をいただいた。

留学生別科修了式

15名が学部・大学院などへ

日本工業大学留学生別科（日本語研修課程）の第三回修了式が、三月一日午後一時より執り行われた。

式は先ず神馬学長から修了証書授与ならびに祝辞。次いで大川理事長の努力への賛辞と励ましの言葉があり、学生を代表して、君（中国）が研修の成果

である格調高い日本語で謝辞を述べて、無事修了した。今年めでたく証書を手にした学生は、合計二十七名。うち新学期より学部へ進む者三名、大学院二名、そして日本語日本文化研究室において、研究生として、さらに勉学に磨きをかける者一〇名。なお修了式終了後

は、別科担当の山岸教授をはじめとする教員および事務職員幹部ら多数を交えての祝賀パーティー。大学心づくしの料理を囲み、なごやかに団らんひとときを過ごした。

アジアのますますの発展が予想されるなか、留学生たちの健闘が期待される

編集後記

春の到来と年度末を感じさせる天満宮境内の白梅と紅梅が、今年も見事に咲き始めました。本号は卒業記念特集号です。喜びと満足に満ちあふれた卒業生と修了生の顔が、紙面の一つ一つの名前から自ずと想像でき、大学に携わる者として、とても嬉しく、又誇りに思います。紙面には、また、学長を始めとし、各学科、共通系主任の先生方からのメッセージが掲載されています。エンジンAの先輩としてのすばらしいメッセージです。四年間で出会えた多くの人を達を財産として社会に羽ばたき、自分の夢を実現して欲しいと願うものです。大学は、今後とも諸君の母校としてお手伝いできると、思っています。（F）